

2024 年度:こども園自己評価の報告書

野田こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	「友達と豊かに関わり合い主体性が育まれる環境づくり」の園内研究テーマをもとに保育アドバイザー派遣研修を進め、子ども一人一人が安心できる関わりや、子ども達が主体的に遊びを展開し友達と関わりを深められる環境づくりを大切に、興味関心を探り、子どもと共に生活を創りながら、教育保育の充実に取り組んできた。 「みんなえがお ともだちっていいな おとなもこどももつながろう」をキャッチフレーズに、子ども一人一人の表現や保護者の思いを受け止めつながれるよう、保育参加等を実施し、ドキュメンテーションを活用しながら保育のねらいを発信して、保護者と共に子どもを育む保育実践に取り組んだ。
健康支援	登園時の視診での保護者との引継ぎを丁寧に行い、一人一人の健康状態を把握できるようにした。感染症予防に手洗いや換気を徹底した。 小学校の校庭で思い切り体を動かせる遊びに取り組み、体幹を育てる活動に取り組み、保健指導でプライベートゾーンや命の大切さ等の話をし、自分の体のことや健康について意識できるようにした。
安全指導・危機管理	毎月安全点検を行い、危険箇所は速やかに改善できるよう対応した。 火災や地震の避難訓練を毎月行い、消火器の使い方を職員で実践する等、防災の意識向上に取り組んだ。また不審者侵入に備えて各保育室の施錠状況を改善した。幼児の交通安全指導を行い、園外保育時に実践しながら交通安全の意識向上につながった。 アレルギー児の配食について何度も手順を確認し、厨房・事務所・担任の連携を確実にできるようにした。
食育の推進	菜園活動で夏野菜、冬野菜等、水やりの世話をしながら収穫する喜びを味わい給食時やお芋パーティ、ポップコーンパーティの機会に旬の野菜を味わう経験を積むことができた。また、給食の食材である野菜の皮をむいたり、キノコをほぐしたりする体験をし、食への興味が高まり、嬉しそうに味わって食べる姿が見られた。季節に応じて七草がゆや節分の豆の話をし、伝統行事を伝える機会にした。
子育て支援（在園児および地域）	マイ子育て広場の導入に伴い「子どもの言葉と育ちの講座」「入所入園の仕方の話」「安心感の輪～親子の愛着関係」等の新しい事業を実施し、園に気軽に来てもらえるきっかけ作りにつながった。 1歳児の育ちの講座では、担任が実際の1歳児の話を伝え、悩みの共有や発達について知ってもらい、保護者同士が交流したりコミュニケーションを図ったりする機会につながった。園児との交流も計画的に行い、クラスの発表を見てもらうことで、地域の方にはほめてもらえたり、声をかけてもらったりして子ども達の自信につながった。

インクルーシブ教育保育	個々の気持ちの出し方や切り替え等に応じたかかわりを探るため、東淀川・中津支援学校から巡回相談に来ていただき、子ども理解や個々の育ちに寄り添う関係づくりの実践に取り組んだ。 外国籍の子ども達が在籍しており、保護者にその国の絵本の読み聞かせをしてもらったり、歌に触れたりする機会を持った。またいろいろな国のあいさつや歌を取り入れ、国旗に親しめるような環境を作り知り合うことを大切にしてきたことで興味や親しみを感じる姿が見られるようになった。
職員の資質の向上	人権研修を年に3回実施し、職員同士がグループワークを通して学んだり、互いに知り合ったりして、それぞれの価値観を尊重し合いながら、協力して保育を進めていける関係づくりにつながった。 公開保育を行い、豊中市教育保育環境ガイドラインを活用しながら、保育の振り返りや意見交流を行い日々の保育に活かしていった。
幼保こ小中の連携・接続	庄内さくら学園の体験入学に5歳児が参加し授業体験をしたり、校庭の遊具で遊んだりして、学校の様子を知ることができた。 7年生が園に来て、4日間実施した保育体験では、子どもの話をよく聞いて関わってくれることから、うれしくて次の日にも来てくれることを楽しみにしている在園児の姿が見られた。「4月に入学したらまた会えるね」と就学の期待にもつながった。 近隣園との交流を実施し一緒に体を動かしたり、リレーを楽しんだり、互いに知り合う楽しさや嬉しさを味わうことができた。
評議員会	1回目は各クラスの様子を見ていただき、園の課題や地域の現状について情報共有した。2回目は、2歳児の公開保育に参加いただき、他園の先生と共に遊びの中での関わりの様子や様々な素材を取り入れてごっこ遊びを楽しむ姿を見ていただき、環境を通した保育について交流を行った。3回目は、5歳児の集団遊びの様子を見ていただき、就学に向けての連携を踏まえた情報共有ができた。
その他	異年齢保育（だんごちゃんの日）に取り組み、触れ合い遊びや、クラスのお店屋さんなどのごっこ遊びの交流を行う。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
子どもが主体的に遊ぶ環境を子どもとともに創造する。	園内研修等、職員間で学び合う機会を定期的に設定し、子ども達の遊びの様子から、遊びのポイントやねらい等を具体的に出し合いながら、クラスの保育に活かし、子ども真ん中の園生活の実現を目指していく。
保育アドバイザー研修を活用し、実践に活かしながら保育の充実を図る。	様々な研修での学びを職員間で共有し、保育実践を検証しながら個々の保育スキルの向上につなげる。

令和7年（2025年）3月31日

豊中市立 野田こども園

園長名 永富 奈緒美